

信仰によって、私たちは
分かるのです
クリス・モモセ牧師

導入

おはようございます。また皆さんにお会いできて光栄です。OICでメッセージをする機会を与えてくださったアリスティア牧師に感謝します。

今朝は、非常に重要だと私が考えるトピックについてお話したいと思います。

今朝皆さんと考えるトピックは、要するにこういうことです。

私たちは、神のみことばの教えやその意味を解釈して信じますが、その解釈を完全でない人間の意見、しかもほとんどの場合ノンクリスチャンの意見によって形成されるままにしていますか。

まず、信仰に関する有名な個所、ヘブル11章を読みましょう。

3節は、次のように語ります。

信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。

自分はクリスチャンだと主張するすべての人は、次のように自問しなければなりません。

「私はこのみことばを本当に信じているだろうか」

神は宇宙と私たちの惑星と私たちを、旧新約聖書が語るとおりの方法で作られたのでしょうか。

それとも、宇宙は約137億年前に起こったとされるいわゆる「ビッグバン」の結果でしょうか。

地球は本当にできてから42億年経っているのでしょうか。それとも、1万年くらい前にできたのでしょうか。

そして、皆さんも疑問に思っているかもしれませんが、進化論が正しいかどうかは重要な問題なのでしょうか。

多くのクリスチャンは、イエスを信じている限り、地球が何十億年前にできていても大したことではないと考えています。

しかし私は、これはすごく重要な問題だと考えています。神学的にも重要ですし、この問題に対してどういう立場を取るかが、私たちの信仰や聖書の捉え方にも影響を与えます。

米国創造論団体アンサーズ・イン・ジェネシス創設者のケン・ハム氏は、次のように語ります。

「私たちが理解しなければならない点は、福音が聖書と呼ばれる書に記されているということです。そして、聖書は信頼できないとか聖書の権威も歴史も疑わしいと人々が思われる時代が続けば、ついに聖書自体に烙印が押され、人々は福音に耳を傾けなくなるでしょう。」

名ばかりのクリスチャンも深い信仰を持つクリスチャンも、私たちが住む宇宙や惑星の起源については、信じるのがばらばらです。

中には、無神論者が信じる内容をそのまま信じているクリスチャンもいます。

その内容とは、地球と地球上の全生物は、何十億年もの間、偶然が蓄積された結果だというものです。

これは、ダーウィンの提唱した仮説です。

つまり、神は進化を用いて地上の生物を造られたという考え方で、人類は皆、サルの子孫というものです。

しかも、そのサルも42億年かけて単細胞生物から進化したとされています。

40億年以上前に地球ができたという仮説に合わせるために、神が時折進化の過程を手助けされたと信じるクリスチャンもいます。そして、進化が旧人類と言われているアウストラロピテクス、ホモエレクトス、ネアンデルタール人といった、たましいを持っていなかった類人まで進められた何十億年もあとに、神が人をお造りになったと言うのです。

また、同じように40億年以上前に地球ができたという仮説に合わせるという理由で、神は創世記1章1節が語るようにこの世をお造りになったが、何らかの地殻大変動などですべてが破壊されたと信じるクリスチャンもいます。そして、創世記1:1と1:3の間に空白の42億年を置き、6日間で現在の地上の動植物をお造りになったと言います。

創世記1章を100%文字通りそのままを信じるクリスチャンもいます。それは、聖書が語るとおり、私たちが住む地球と全生物は24時間を1日とする6日間で造られたというものです。

このトピックは、一度のメッセージで語り尽くすには大きすぎることは分かっていますが、今日の短いメッセージを神が用いてくださって、聖書を文字通りに受け入れる人たちを励ましてくださるようにと祈っています。また、科学者の考えを真理として受け入れている人たちが、創世記の文字通りの解釈を支持する根拠について、少なくとも考慮してくれるように祈ります。

最初に言うておきますが、創世記1-11章に関する文字通りの解釈を信じなければ救われたいと言っています。しかし、もし**世間の考え**と合わなければ聖書を文字通り読まなくてもよいとクリスチャンが考えるなら、そのクリスチャンは非常にもろい信仰の土台に立っていることとなります。

もちろん、聖書には様々な寓話が含まれていますが、創世記は寓話ではありません。モーセが創世記を**歴史の記録**として記したことは明らかです。

ではこれから、ふたつの観点からこのトピックについて考えていきましょう。科学的観点と神学的観点です。

I. 科学的問題—地球の年齢

先ほど言ったように、進化論者の多くは、地球の年齢が40億年を超えていると教えます。そして、人間をはじめ現存する地球の生物は、単細胞生物から40億年かけて進化したものだと教えます。

ですから、進化論者は地球が全能の神によって造られたとは信じていません。彼らが信じるのは偶然の生みだす結果であり、それ以上のものは何もありません。

進化論を信じるクリスチャンは、神を信じていますが、神がビッグバンを用いて宇宙をお造りになったと信じています。そして、現在、全世界の教育機関で教えられている進化は、神が地上に生物を造るために用いられた手段だと捉えています。

科学者たちが何と言おうと、進化論は**仮説**に過ぎないということを覚えておいてください。科学者の方法論によって再現したり証明したりすることはできないのです。

ですから、世界中の科学者や学校の教師が何と言おうと、何十億年も前に起こったことに関する進化論者の仮説が正しいと証明する科学的**証拠**は一切ありません。あるのは、こういうことが**起こったのではないか**という**推測**だけです。

もちろん、6日間で神が宇宙と地球を造られたと信じる人たちも、それらの奇跡を再現することはできません。あらゆる証拠や事実を目を向けることはできますが、最終的には**信仰**をもって受け入れるのです。

これが、進化論者の持ちだすポイントのひとつです。進化論者は進化論が科学で、創造論は信仰であって科学ではないと主張します。

しかし、進化論と創造論の両方を30年以上勉強してきた結果、私は自信をもって言います。進化論者も進化論が正しいと信じるには大きな信仰が必要です。実際には、創造論者が創世記の文字通りの解釈を受け入れるよりも、進化論者が進化論を信じるほうが、**もっと**信仰が要ります。

では、多くのクリスチャンが進化論ではなく聖書に記された話を信じる選択をした根拠をいくつか見ていきましょう。何千人もの科学者にも、この選択をした人たちがいます。

A. 不正確な年代測定法

聖書が教える天地創造を人が受け入れられない理由のひとつは、宇宙と地球の年齢について教えられたことを信じているからです。

科学者は、地球の年齢が**40億年**を超えていると主張します。そうでなければならぬからです。科学者は、生物の進化にはそれほどの時間が必要だと認めます。

ですから、科学者の主張どおり、地球がそれほど長く存在し得るかどうかを確かめるのが非常に重要です。また、岩石や化石など古代の物質の年代測定に使用する膨大な数はどのようにして割り出すのかも考えなければなりません。

地球がもっと新しいと示すことができれば、または科学者たちが使用する年代測定法が信頼性に欠けると分かれば、進化論は崩れます。

科学者は、炭素**14**年代測定法やカリウム-アルゴン年代測定法といった年代測定法について語ります。これらの方法論について科学的に説明する時間はありますが、これらの測定法がどれほど不正確で信頼性に欠けるかお話しします。

岩石の年代測定をする際には、たいていカリウム-アルゴン年代測定法が使われます。これは、岩石中の放射性アルゴンと放射性カリウムの量の割合を測定し、放射性カリウムと放射性アルゴンの放射性崩壊の割合で岩石の年代を割り出すという方法です。

科学者は、年代測定法が正確で信ぴょう性があると私たちを納得させようとしますが、実際にはそうではありません。

例えば、**1800**年にハワイで形成された溶岩をカリウム - アルゴン法で測定した例があります。この溶岩はできて**200**年も経っていないのに、測定結果は**10億年**から**24億年**前を示したのです。これに似た測定がニュージーランドでなされ、測定結果は**14万5000**年から**46万5000**年前を示しました。しかし実際には、この溶岩ができて**1000**年も経っていないことがわかっています。

炭素**14**年代測定法にも深刻な問題点があり、実際よりもずいぶん古い年代を示す測定値が算出されます。

B. 石炭の中に「現代」の物が発見された例

石炭は何億年という昔に形成されたもので、新人の進化は**15**万年前に始まったと科学者たちは言います。

しかし、過去約**100**年の発見から、これらの主張が信頼できないことがわかってきました。

例えば、**1936**年にテキサスで発見されたハンマーは一部が石と同化しており、周囲の地層から**4**億年前のものと言われています。

また、**1944**年には、ウエストバージニア州で**10**歳の男の子が石炭の中にあつた真ちゅうの鐘を見つけました。石炭のかたまりを男の子が落として割れたことで、鐘が見つかったそうです。

この石炭の塊が採掘された石炭層は、**3**億年前のものと考えられていました。

明らかに、これらのものが発掘された岩石や地層の推定年代は、数億年単位で間違っているということです。

鉄の金づちや真ちゅうの鐘を作る技術が発明されたのは、せいぜい**5000**~**6000**年前でしょう。

それでは、なぜ数億年前の地層や岩石の中にそのようなものがまぎれこんだのでしょうか。

実は、そんなことは起こっていないのです。

それらの物は、**数千年前**の岩石や地層に入っていたということです。つまり、地球の年齢は**40**億年ではないということです。

さらに、地球の年齢が数十億年でも数千万年でもないことから、地球上の生物の起源が進化論では説明できなくなります。

C. 恐竜の骨に含まれる軟組織

進化論者が抱えるもうひとつの問題は、恐竜の化石に軟組織や血液細胞が見つかったことです。進化論者によると、恐竜は6500万年前に絶滅しました。

しかし、2005年にワイオミング州で発見されたティラノサウルス・レックスの骨に、軟組織と赤血球、そしてコラーゲン類似の繊維やたんぱく質類似の分子が含まれていました。6500万年前の地層から発見されたはずなのに、細胞の一部はまだ伸縮性がありました。

中国では、1億3000万年前のものとされる化石が多数発見されましたが、皮膚やえらを含む軟組織が残っていました。

進化論者は、地球の年齢を再考することはせず、軟組織や血液細胞が数億年前のものとされる化石から発見されたことをなんとか説明しようと苦悩しています。

けれども、これは科学的に不可能ですから、理にかなった結論はただひとつです。その結論とは、化石が実はこれまで考えられていたよりもずっと新しいものだということです。

D. 複層化石

今日のトピックについて聖書が語る内容を学ぶ前に、もうひとつの話題に簡単に触れておきます。

皆さんもご存じのとおり、堆積岩は堆積物や泥が層を成し、次第に重みや圧力で押し固められたものです。

多くの堆積岩は、前の層が形成されてから、次の層が形成されるまでに何十万年も何百万年もかかるとも言われます。

先ほど、カリウム - アルゴン法などの年代測定法による岩石の年代測定値は信頼できず、数百万年から何十億年の誤差が生じることがわかりました。

さらに、堆積岩の年代に関する問題として、複数の地層を垂直に貫く木の化石が見つかることが挙げられます。

創造論を支持する科学者は、そのような木を「複層化石」と呼びます。数々の堆積層が周囲を固めるまで、そのような木が何万年も直立した状態を保つのは不可能です。

年代測定法、石炭の中から発掘された遺物、恐竜の骨に見つかった軟細胞、複層化石。これらはダーウィンの進化論が真実であるはずがない科学的根拠のほんの一例です。

微生物学、生物学、遺伝子学、物理学、天文学、古生物学の観点から見ても、進化が起こる可能性は0%ですが、これに関して今回はひとつも触れていません。

このトピックに関してもっと知りたい人は、創造科学に関する優れた本がいくつもありますので、ぜひ読んでみてください。帰る前に推薦文献のリストをもらってお持ち帰りください。

今日、資料をいくつか用意しましたので、興味のある方はお持ち帰りください。

II. 聖書的問題

A. 創造主が創造に関して語られたこと

地球上の生物や地質に関して進化論では説明できない科学的根拠について考えてきましたので、今度は聖書が創造に関して何と言っているか見ていきましょう。

まず、神ご自身はみことばでこの世界について何とおっしゃっているのでしょうか。

1. 旧約聖書のみことば

a) 創世記1章

創世記1：1は、聖書の中でももっともよく知られたみことばのひとつです。

初めに、神が天と地を創造した。

今日のメッセージの冒頭で、ヘブル11：3を読みました。そこには、次のように記されています。

信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。

「神が創造した。」神は、宇宙と宇宙に存在するすべてのものをことばによって創造されました。

詩篇の著者は、詩篇33：6、8-9で次のように語ります。

主のことばによって、天は造られた。… 全地よ。主を恐れよ。世界に住む者よ。みな、主の前におののけ。まことに、主が仰せられると、そのようになり、主が命じられると、それは堅く立つ。

なぜ私たちは、主を恐れるように命じられているのでしょうか。

それは、何かが起こるように神が命じられると、**その瞬間に**そうなるからです。

何十億年も何百万年も後ではなく、神が命じられたその瞬間にそうなります。

創世記一章で神が、「光があれ。」とおっしゃると、すると光があったのです。

神が「天の下の水が一所に集まれ。かわいた所が現れよ。」とおっしゃると、海と地ができました。

神が、「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。」とおっしゃったとき、

「… 神は人を創造された。… 男と女とに創造された。」

注目すべきもうひとつのポイントは、5-31節に見られる、「夕があり、朝があった。第〇日。」という表記です。

この「日」と訳されたヘブル語の単語は、「ヨム」で、旧約聖書では95%の確率で24時間の1日を指します。

また、モーセが24時間の1日を指していたことは疑いの余地がありません。というのも、聖霊に導かれ、24時間の1日について語っていると読み手に伝えるために、「夕があり、朝があった。」という言葉を書いたからです。

中には、この「日」を数百万年の期間と捉えようとするクリスチャンもいますが、この内容からそれには無理があります。

同じことが、よく知られた十戒の第4の戒めについて言えます。

9 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。**10** しかし七日目は、あなたの神、主の安息である。… **11** それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。

もし聖書が神の靈感による神のみことばだと信じるなら、私たちの創造主が本当にこの世界とすべてのものを造られたことを受け入れなければなりません。神は、24時間を1日とする6日間で、ことばによってすべてのものを創造されました。

もうひとつ考えるべき重要なことは、進化論が真実なら、私たちは単細胞生物の子孫ということになります。では、人間のたましいはどこから来たのでしょうか。確かに、たましいのないアメーバや虫けらから進化してできたはずはありません。

伝道者の書12：7は、私たち人間が死ぬと、「ちりはもとあった地に帰り、霊はこれを下さった神に帰る。」と語ります。

私たちの霊は、私たちの創造主によって与えられたのです。何十億年もかけて進化した結果ではありません。

進化論を本当に信じる人は、人のたましいの存在を否定しなければなりません。けれども、そんなことをするクリスチャンに、私は会ったことがありません。

2. 新約聖書のみことば

旧約聖書には、見るべき個所がもっとありますが、新約聖書はどうでしょう。

イエスや使徒たちは、創世記の話について何と言っているのでしょうか。

パリサイ人に結婚と離婚について尋ねられたイエスは、マルコ10:6でこのようにおっしゃいました。

「創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。」

つまり、神はビッグバンを用いて宇宙の創造を始められた何十億年も経ってから人類を造られたのではないということです。

余談ですが、6日間で創造が起こったことを信じないクリスチャンのほとんどは、神に従って舟を作ったノアの話も信じられないようです。

イエスは、ノアの話が歴史の記録であり、世界規模の洪水は書かれているとおりに100%事実であることを明らかにしておられます。

イエスはルカ17:26-27で、創世記6-8章が事実であると確認しておられます。

「人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日が起こったことと同様です。ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、食べたり、飲んだり、めとったり、とついたりしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。」

イエスは、6日間で世界が創造されたこともノアの時代の世界規模の洪水も創世記の話が事実であると確認しておられます。この世界規模の洪水によって、現在発掘されるほとんどすべての化石が地層に埋没され、残っているのです。

不完全な人間の「科学」と呼ばれる考えではなく、神のみことばを第一に考えるのは、クリスチャンにとってとても大切なことです。馬鹿にしたい人にはさせておけばよいのです。聖書は神の完全なみことばです。ここにいる皆さんが神のみことばを完全なものとして受け入れることを私は祈ります。

B. 聖書に登場する恐竜

創世記1章の文字通りの解釈に対する批判のひとつは、もしそれが正確であるなら、恐竜と人間が同じ時代に生きていなければならないということです。

科学者は、進化が進んで人間が生まれる何千万年も前に恐竜は絶滅したと主張します。

しかし、聖書はそうは言っていません。

ヨブ記40章で、神は恐竜についてヨブに語っておられます。ヨブが実際に見て知っている恐竜についてです。

15 「見よ、ベヘモットを。お前を造ったわたしはこの獣をも造った。これは牛のように草を食べる。16 見よ、腰の力と腹筋の勢いを。17 尾は杉の枝のようにたわみ、腿の筋は固く絡み合っている。18 骨は青銅の管、骨組みは鋼鉄の棒を組み合わせたようだ。19 これは神が造られた第一の獣。」

英語の聖書の多くは、ベヘモットについて注釈がある場合、カバカゾウと記しています。

日本語の聖書はどういうわけか、主流の訳3つのうちふたつが、注釈としてではなく、カバと訳しています。

しかし、この訳または解釈は正しいのでしょうか。

もちろん、カバは草食で、強い筋肉と丈夫な足の骨があります。ゾウもそうです。

しかし、カバやゾウの尾は杉の枝に似ているのでしょうか。

また、カバは神が造られた第一の獣だと真顔で言えるのでしょうか。

しかし、尾を含む詳細なベヘモットの描写にぴったりの動物がいます。それは恐竜です。

もし創世記1章の創造の一日が、私が信じるとおりに本当に24時間であれば、人間と恐竜が同じ時代に生きていたと考えるのが自然です。

そうすれば、世界中に恐竜の絵や彫刻があることに説明がつきます。また、恐竜や恐竜に似た生物の目撃証言が過去100年間に数多く存在することも説明がつきます。また、世界中には竜の話がありますが、中には過去数百年以内のものもあります。これも説明がつきます。

C. 罪が入る前の死？

進化論を信じるクリスチャンが聖書に忠実でないとと言える重要な根拠のひとつに、罪と死に関する聖書の教えがあります。

進化論は、何十億年も死と突然変異を繰り返してきたという前提がありますが、もし聖書の教えが真実なら、この前提は真実にはなり得ません。というのも、聖書は、アダムとエバが罪を犯したときから死がこの世に入り込んだと教えるからです。

神は創世記2：17でアダムに次のように警告されました。

「善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

しかし、ご存じのとおり、アダムとエバはサタンに欺かれ、その木から取って食べてしまいました。使徒パウロはローマ5：12で、その結果何が起こったか語ります。

ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、 - - それというのも全人類が罪を犯したからです。

パウロが罪と死について言っていることがわかりますか。

死がこの世に入ってきたのは、アダムの罪の結果です。

つまり、アダムが罪を犯す前は死がなかったのです。

創世記1：31は、神が6日間の創造の業を終えられた時のことを記しています。

「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。」

また、科学者が恐竜の骨にガンを発見したので、進化論を信じるクリスチャンは、アダムが罪を犯す何百万年も前から、病や死があったことを信じなくてはならなくなります。

さらに、病や死が**神のせい**だと信じなくてはならなくなります。なぜなら、アダムが罪を犯す前から、病や死が神の創造されたものの一部であったということになるからです。

おわかりのように、クリスチャンであってもなくても、進化論を信じるか聖書の教える創造論を信じるかは非常に重要な問題なのです。

進化論を信じることは、神のご性質と完全さと力に異議を唱えることだからです。

D. 究極の計画—完全な被造物の回復

アダムの罪は、アダム自身とエバの死をもたらしただけではありません。アダムの罪のせいで、全世界が死に直面するようになりました。

アダムの罪が原因で、動物も死ぬようになり、この地球には天災が起こるようになってしまいました。

神の究極のご計画が、救いと墮落した世界の回復である理由はここに 있습니다。世界の回復とは、罪が入る前の完全な状態への回復です。

ローマ8：21は語ります。

罪、死、腐敗などは跡形もなく消え去り、私たちを取り巻く世界は、神の子供たちが喜びをもって味わう、罪からの輝かしい解放にあずかる。(リビングバイブル)

こういうわけで、創世記の1-3章は文字通りに解釈しなければならないのです。

この個所から、世界が完全で罪のない状態に造られたことがわかります。そこには、疑念や苦しみもありません。

アダムとエバは、いのちの木から食べることも許されていて、罪を犯さなければ永遠に生きるようになっていました。

けれども、罪がその完全な状態を壊し、死がこの世に入ったのです。

初めからの神のご計画は、この墮落して滅びゆく世界を元の状態に回復することです。

イエスの死と復活は、私たちの贖いと私たちのたましいの救いだけでなく、私たちの住む墮落した惑星の救いをももたらしました。

被造物が死と腐敗の呪縛から解放されるとパウロが書いたのは、こういうわけです。

これは、主がこの世を再建なさるときに起こります。これについては、ペテロ第二3：3および黙示録21：1,3,4に記されています。

私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。

1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去った。… 3 「見よ。神は[私たち]とともに住み、4 … 以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

このことが現実となる時、イエス・キリストを信じる信仰によって罪をきよめられたすべての人は、新しい地で永遠に生きると、黙示録22章は語ります。そして、アダムとエバがそうだったように、いのちの木から自由に食べることができるようになります。

結論

おわかりのように、創世記の文字通りの解釈は、創世記の最初から黙示録の最後まで一貫した神の驚くべき知恵と恵みを示します。

救われるために6日間の天地創造を信じる必要はありません。聖書が恐竜について語っていると信じる必要もありません。そして、救われるためにノアの時代に起こった世界規模の洪水を信じる必要もありません。

しかし、聖書が神の靈感による永遠の真理として大切にし、神のみことば以上に人の言い分を重視するようなことをしないと断言するのであれば、また、モーセや使徒パウロが書き記したこととイエス様の語られたことを信じたのであれば、そして、天地創造や人のたましいに関わるキリストの福音の理解を土台とした神学的に正当な信仰を持ちたいのであれば、私たちは創世記の天地創造と人間の墮落の記録を書かれておりに信じて受け取らなければなりません。神の存在を否定する不完全な科学者に、何が真実かの答えを求めてはいけません。

ここにいらっしゃる皆さんが聖書を神様の靈感による永遠の真理として受け入れて、その真理に基づいたクリスチャン生活を送ろうと決心できますようにお祈りしています。

ありがとうございます。